

第5次とよおか教育プラン（素案）に対する意見と事務局の考え方について

1 意見の内容と事務局の考え方

(1) 策定委員会

頁	意見の内容	意見に対する事務局の考え方
P2 6～8 行 目	第1部1(2)「夢や目標など自分や社会の現在と未来を創造するために必要な非認知能力の向上」について、この文章だと夢や目標が非認知能力のように見えてしまう。文章の表現を工夫すべきでは。	下記（下線部分）のとおり変更します。 第5次計画においても、すべての子どもたちが、 <u>夢や目標などの実現に向けて、自分や社会の現在を適切に判断・分析したうえで未来を創造するために必要な非認知能力の向上について、引き続き取り組むことが重要である</u> と考える。
P9 5 行目	3(1) 新型コロナウイルス拡大について、緊急事態宣言と5類移行が並列されており、両方とも感染拡大を表しているように解釈できてしまうのではないかと。	下記（下線部分）のとおり変更します。 2020年からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大期間中（2020年2月最初の「緊急事態宣言発令」、2023年5月「5類感染症移行」）
P12 2 行目	4 教育の方向性について、「ウェルビーイング」と「幸福感」という言葉が使用されている。どのように違うのか説明が必要ではないだろうか。	下記（下線部分）のとおり変更します。 これからの教育の方向性において大切な視点は、「予測困難で不確実、複雑で曖昧」な時代に向けて、一人一人の子どもが自分らしく生きていけるための非認知能力の育成と、 <u>ウェルビーイングの向上</u> にあると考える。 また、下記を削除します。 学力・不登校・いじめ…それぞれの幸福感を得ることが重要である。
”	ウェルビーイングの説明で、「どのような学習環境や生活環境にあっても」とすると、「どのような状況（例えば極度の貧困等）でも何とか前向きになれる」と解釈されないだろうか。	同上
P14 10 行目 ～	第2部1 基本理念について、「なりたい」という言葉にはすでにロールモデルが存在する印象があるが、予測困難な時代という前提を踏まえると2050年における私たち	下記（下線部分）のとおり変更します。 次に「 <u>在りたい自分</u> 」は、自分らしく過ごす、ありのままの自分を大切にすること、 <u>あったことを基本とした内面的な状態をいう</u> 。子どもたち一人一人が自分自身と向き

	<p>の幸福な自己像というものが何か分からない。それでも人とのコミュニケーションの中で、私たちはどのような社会を作っていきたいか考えるという話だと思う。その「なりたい」と「在りたい」の違いは重要である。「なりたい」より「在りたい」の方が分かりにくいことから、「在りたい」とすることについての説明が必要になる。</p>	<p>合い、自分の中にある価値観に基づいて、評価・判断し、それぞれの幸福感につなげ、自分のよさや可能性を認識していくことが大切である。<u>個人の価値観も幸福感も時代や環境によって変化していくものであるが、どんな時でも常にどう在りたいか、という意識を持って、自分と向き合ってほしいというメッセージである。</u></p>
”	<p>「在りたい自分」の表現がについて、「自分らしく過ごす、ありのままの自分を大切にする」という面ではよく分かるが、「正直」「優しい」という2つにこだわり、さらにその「内面的な状態をいう」と限定的にしている。正直で優しい人間とことだけが「在りたい自分」で良いのか。そればかりが全てではないのでは。</p>	<p>同上</p>
P14 16 行目 ～	<p>「在りたい未来」の文章について、「個人それぞれがめざす理想の自己、地域、社会の未来像」と記載がある。 目指す理想の自己、地域、社会を目指すであれば分かるが、未来像の表現についてはなくても良いのでは。</p>	<p>下記のとおり変更します。 また、「在りたい未来」は、個人それぞれがめざす理想の自己、地域、社会になる。</p>
P14 20 行目 ～	<p>2024年の全国学力・学習状況調査について、「自分にはよいところがあると思う児童生徒」が90%、同じく「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う児童生徒」についても90%と、どちらも90%であるため、同じ表現ではなく、どちらも90%を超えている高数値であると、まとめても良いのでは。</p>	<p>下記（下線部分）のとおり変更します。 2024 年度の全国学力・学習状況調査の結果から、豊岡市の子どもたちは「自分にはよいところがあると思う児童生徒」、「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う児童生徒」とともに、<u>約 90%となっている。</u></p>
P16 14 行目 ～	<p>2 基本方針 1 (1) 多様性の尊重と包摂性のある教育の推進について、社会包摂を「個別最適な学び」、多様性の尊重を「協働的な学び」というように分けなくても良いのではないか。</p>	<p>下記のとおり変更します。 そのためにも学校教育において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な取組が重要となる。</p>

P17 4行目 ～	(3)「豊かな学びを身に付けるうえで必要となる、文化芸術やスポーツを体験する機会」について、祭りなど地域活動についても文章に入れてもらえないだろうか。	下記（下線部分）のとおり変更します。 また、豊かな学びを身に付けるうえで必要となる、文化芸術やスポーツ・ <u>地域行事</u> 等を体験する機会を、 <u>学校園と家庭、地域</u> 、関係機関が連携し確保していくことが必要である。
P18 17行目 ～	基本方針2(1)「学校園・家庭・地域等の連携・協働の推進」に「地域においては旧小学校区ごとに地域コミュニティ組織があり」とあるが、地域コミュニティがない旧小学校区もある。	下記（下線部分）のとおり変更します。 また、地域においては <u>ほとんどの旧小学校区に地域コミュニティ組織があり</u> 、子どもへの地域への愛着の醸成や地域行事への参加を促すような取組等、保護者や地域住民の教育活動への参画を学校とともに促進していくことが求められる。
P18 19行目 ～	「学校園・家庭・地域等の連携・協働の推進」とあるが、学校運営協議会も地域に該当するかと思うので、記載してもらえればと思う。	下記のとおり追加します。 加えて、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の実効的な活用を推進していくことが重要である。
P18～19	基本方針2 基本的方向の項目の順番について	順番は素案通りとします。 策定委員会での意見 ・ここで重要なのは、基本方針2のタイトル後半である「家庭・地域等との共創」だと思う。このタイトルから考えるのであれば、総論から始まる今の順番のままで良いと思う。 ・家庭や地域の連携は、関連の本を読んでも大抵最後のあたりに出てくるような、付属として位置づけられていた部分があった。それをあえて一番に持ってくるのはとても画期的だと感じた。

(2) パブリックコメント（1件）豊岡市ホームページで結果公表

頁	意見の内容	意見に対する事務局の考え方
	<p>私が唱える教育プランは「先祖から続く広い道路を歩け」です。</p> <p>例えば私の場合父が工場長、母親がサービス業でしたので、二人の単位を足すとビジネスの学問に近くなると思います。</p> <p>また祖父母やさらに分かる範囲の先祖の単位数を足して、子どもたちは、先祖から続く大きな道路を歩けます。あまりにもこの道をそれると派生した細い道を歩く事になり収入は減ってしまいます。</p>	<p>ご意見いただきありがとうございます。</p> <p>子どもたちが、予測困難な時代の中で自分らしく生き抜く力を育める計画となるよう、今後の参考とさせていただきます。</p>

(3) 教育委員からの意見聴取（1件）

頁	意見の内容	意見に対する事務局の考え方
	<p>何度も協議を重ねていただき、大変分かりやすく、尚且つ具体的なプランになったように感じます。</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>今後は第5次プランに掲げた基本理念の実現をより具体的に進めるため、毎年度「実践計画」を策定し、施策に基づいて指標や取組を定め、毎年見直しを図りながら実践を進めていく予定です。</p>